

2018年2月吉日

各位

道北の地域振興を考える研究会
会長 清水池 義治

第22回道北の地域振興を考える講演会のご案内

「道北の地域振興を考える講演会」は、1997年に発足した「道北の地域振興を考える研究会」の主催により同年度に第1回を開催し、この2017年度で21年目、第22回を数えます。

今年度のテーマは、「アイヌから道北地域のアイデンティティを考える」です。近年、地域社会の維持・発展、振興を考える上で、ある地域が他の地域と異なる固有性、地域アイデンティティへの注目が高まっています。なぜなら、地域社会を担っていく住民の原動力になるものであるからです。地域アイデンティティは、その地域が過去から紡いできた文化や歴史に大きく規定されます。ところが、北海道は明治期以降の開拓という特殊性もあって、それ以前から長く存在してきたアイヌ社会との連続性が明確ではなくなっています。

近年のアイヌ研究では、アイヌは自給自足・狩猟採集だけではなく、本州を含む周辺地域と活発な交易を行っていたことが明らかになってきました。天塩川河口部付近がその一大拠点であったとの学説もあります。対外世界と盛んに交流しつつ固有の社会と文化を維持してきたアイヌの歴史は、道北地域の今後を考える上で大きな示唆を与えてくれるのではないのでしょうか。

つきましては、年度末のご多忙のところ誠に恐縮ですが、万障お繰り合わせのうえ講演会にお越しいただきたく、ご案内申し上げます。

記

第22回 道北の地域振興を考える講演会

日時 2018年3月19日(月) 14:00～17:30

場所 名寄市立大学図書館大講義室(名寄市西4条北8丁目)

※大学敷地内は全面禁煙ですので、ご協力をお願いします。

※事前の出席連絡・手続き等は必要ありません。

第1講演 蓑島 栄紀 氏(北海道大学アイヌ・先住民研究センター・准教授)

演題:道北の古代交流が現代に語りかけるもの—アイヌ史研究の新潮流

第2講演 鈴木 邦輝 氏(名寄市北国博物館・嘱託学芸員)

演題:天塩川に生かされたアイヌ～近世文献を中心に～

調査報告 氏江 敏文 氏(日本考古学協会)

演題:チャシから見えてくる道北アイヌの生活～中川町でのチャシ発掘調査より～

総合討論

主催 道北の地域振興を考える研究会(会長:清水池 義治)

共催 名寄市立大学コミュニティケア教育研究センター(センター長:結城 佳子)

後援 テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会(会長:加藤 剛士(名寄市長))

※本事業は、道北の地域振興を考える研究会と名寄市立大学コミュニティケア教育研究センターによる連携事業の一環として実施されます。また、本事業は(一社)北海道開発技術センター、(一財)北海道河川財団、(一財)石狩川振興財団による事業費支援を受けています。

連絡先 道北の地域振興を考える研究会事務局(担当:今野 聖士)

住所 〒096-8641 名寄市西4条北8丁目1 名寄市立大学

T E L 01654-2-4194(代表) F A X 01654-3-3354

E-mail m-konno@nayoro.ac.jp

以上